NPO 法人日本空手松涛連盟静岡県本部

静岡松涛タイムス 第 41 号

発行元：静岡県本部広報部　　責任者：滝田宏平
連絡先：0547-36-1238(TEL)　0547-36-1293(FAX)
E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp
URL　http://www.shizuoka-karate.com/ (公式 HP)
http://www4.tokai.or.jp/sougou/　(広報部)

■清水支部烈士館特別講習会■

大陸からの冬将軍が猛威をふるう厳寒の 2 月 10 日(水)に、清水支部烈士館道場で特別講習会が開かれ、清水支部に所属する先生方や会員、そして受講を希望する有志の皆さんが県内各地より参加しました。本特別講習会は、世界的に知られる「国際松濤館・三浦勝師範」を講師に招いての開催となりました。三浦師範は、今回のテーマ「空手は 1+1=2」の理論を、数々の技の中で解説していただきました。先生は「余計な力・動作・感情が 1+1 の解を狂わせます、素直に答えを出すのであれば、無駄な力や動作は必要ないのです。最小限の動作と力で最大限の効果を」と、攻守(実際には受け後の反撃)のシンプルさを繰り返し強調していました。それが証明されたのが、県内屈指の猛者としられる若手選手 2 名を同時に相手とした打ち込みでした。息があがりバテバテの若手を尻目に、三浦師範は呼吸ひとつ乱しておりませんでした。「1+1 は算数の原点です、ですから私達も空手の原点を忘れてはいけません。解らない・出来ないなら、一旦基本に戻りましょう」と指導がありました。型の講義でも、技の意味合いを含め原点と基本が、なぜ大事なのかを指導していただきました。今回の講習で学んだ事を、普段の稽古で更に磨き精進していきたいと考えております。(レポート：広報部　秋山高士)

三浦 勝(みうら まさる)1939 年静岡県に生まれる。13 歳より空手を始め、拓殖大学空手部に入部。中山正敏師範・金澤弘和師範に松濤館流空手を学ぶ。卒業後、中山師範の命を受け、空手未開の地であったヨーロッパに渡り、現在までイタリアに 44 年間に渡り空手道の普及に尽力している。現在、国際松濤館空手道連盟イタリアのテクニカルディレクター。71 歳

■第 8 回藤枝高州支部鷹生館大会 ■

平成 22 年 2 月 28 日(日)に藤枝高洲支部鷹生館道場にて、第 8 回鷹生館大会が開催されました。当日は前日からの雨が大会直前まで降り、はっきりしないお天気でしたが、試合が始まる頃には晴天となり春のような陽気になりました。参加した鷹生館の選手達は午前中型試合、午後からは組手試合に挑みました。試合中は元気な子供達の気迫のこもった動きや気合が道場の中に飛びかい、応援してくれる家族の前で日頃の練習の成果を発揮する事ができました。試合終了後に表彰式が執り行われ、選手や先生方と記念撮影をする頃になると、メダルを首に掛けてポーズを極めた子供達の姿は誇らしげに見えました。また、惜しくも賞が取れなかった子供達は次の大会に向けて練習を頑張ろうと決心した様子が見受けられました。これからも鷹生館大会を継続し、道場生の技術や誠心の向上を目標にして、次へのステップアップに繋げる事ができるような大会にしていきたいと思っています。最後となりましたが、県内各地の松涛連盟の先生方に審判等のサポートをしていただきまして心より感謝申し上げます。(レポート：小椋　明　藤枝高洲支部鷹生館)

■県本部主催昇段審査会合格者 ■

【少年初段】	富田　莉子(精誠館)	高橋　温花(律誠館)	杉山　城(静岡西)	深津　楓(精誠館)	
沢嵜　真福(静岡南)	池田　光(西焼津)	藤井　亮祐(浜　松)	高松　優那(川　根)	栗田　蒼(大　里)	
奥村　祐哉(浜　松)	鷲野　加奈(焼　津)	片山　巧実(精誠館)	太田　椋介(西焼津)	赤堀　柊太(静岡南)	
坂下　航平(川　根)	桑原　弘太(焼　津)	金山　廉(駿　河)	【一般初段】	望月　正彦(川　根)	
向島康眞(健康空手)	今西　章夫(大　里)	赤堀理恵子(静岡南)	柴山　謙次(静　岡)	曽根　佳代(高　洲)	
【少年弐段】	夏賀　愛香(精誠館)	萩原　実理(精誠館)	【一般弐段】	中西　俊介(御殿場)	
鈴木　伸彦(静岡西)	下出　真弘(精誠館)	【一般参段】	柴田　聖子(精誠館)	平成 22 年 3 月 7 日実施	

■第９回鷹生館・将陽館・拓空館 交流試合■

平成 22 年 3 月 28 日(日)島田市金谷体育センターにおいて、「第 9 回鷹生館・将陽館・拓空館 交流試合」が開催されました。兄弟支部である三支部が、道場生の交流を目的に始めた本大会も、年を重ねるごとに参加人数が増え、今回は過去最多の 120 名を越える大会となりました。なかでも目を見張るのが、一般有級の参加者です。総勢 25 名と規模の割りにエントリーが多く、小さな大会とは思えない盛り上がりを見せていました。午前中の型の部では、空手を始めたばかりの幼年参加者に、黒帯の中学生が付き添い、号令にて型を行うというローカル大会ならではの微笑ましい場面も･･･。普段の練習では見られない選手たちの真剣な表情に、先生方も目を細めていらっしゃいました。大会の最後は一般有級の鬼気迫る組手試合で締めくくり、大盛況のうちに閉会しました。私は今回、大会を運営する立場として参加させていただきましたが、準備の段階から頭を抱えることばかり。選手としてだけでなく、指導員として成長しなければと思いました。最後になりましたが、大会を支えていただいた先生方、運営に関わった指導員の先生方、コート係の父兄の皆様方、本大会の成功を心より感謝申し上げます　押忍　（レポート：藤原誠二郎　島田支部拓空館）

■ 第 10 回松永杯水上杯争奪静岡市空手道大会■

新年度の訪れに先駆けて、暖かく優しい日差しに誘われて桜の花が開花し始めた 3 月 28 日に「第 10 回松永杯・水上杯争奪戦静岡市空手道大会」が静岡市郊外の静岡北部体育館において開催されました。本大会は静岡市内で活動している松涛連盟各支部に留まらず複数の協賛団体の参加を交えて、次代を担う選手を輩出すべく幼年から一般まで級別にカテゴリーを区分けして試合を行われます。試合に不慣れな選手は試合勘を習得でき、選手達の力が拮抗しているので本来の力が発揮しやすく、試合結果を基にして今後の稽古への動機づけ向上が見られる等、多様な成果が得られる絶好の大会であると言えます。また、本大会は個人戦となっておりますが、入賞者人数の合計ポイントによる、組手の部(松永杯)・型の部(水上杯)のタイトル争奪戦のため、各支部対抗戦の要素があり、いつにも増して所属する道場の選手を懸命に応援する選手とご父兄の姿がより多くみられました。さらに本大会は、通常開催される大会の、観客席スタンドからの応援と違い、試合コートにより近い距離で選手を応援できるので、普段は道場の外で稽古を見学している事が多いご父兄の方にも、試合を間近で観戦して頂く事により武道である空手道本来の姿、及び当連盟の活動理念を多くの方々にご理解いただいた大会であったと思います。本大会で現在の力を確認した各選手が今後も稽古に励み、これから本格的に行われる平成 22 年度各種大会において、当連盟各支部所属会員皆それぞれが、実力を存分に発揮し、素晴らしい成果を残せる事が出来るよう心から願っております。最後となりますが、本大会開催並びに運営にご尽力頂いた各先生方をはじめ、御父兄の皆様には、深く感謝するとともに、心より御礼申し上げます。　(レポート：鈴木伸彦　静岡西支部)

■第６回やまびこ杯争奪空手道大会■

厳しい冬がやっと終わりを告げ、どことなく春を感じ始めた早春の川根路、山村開発センターにて 3 月 21 日(日)に川根支部主管の「第 6 回やまびこ杯争奪空手道大会」が盛大に開催されました。恒例となった本大会も今年で 6 回目を数え、今回は川根支部 3 道場に加え、安倍川支部と剛柔流をはじめ県連で活躍中の友好道場も複数参加し、大会を盛り上げました。出場した選手は本格的なシーズンに向けて、コートの感触を確かめるかのように真剣に、そして試合を楽しむかのように穏やかな表情で、冬の間の厳しい稽古で磨いた技を競い合いました。入賞ポイントが道場別に与えられポイントの合計で競うのですが、面白いのが「応援ポイント」です。チーム応援が一番素晴らしい道場に与えられるのですが、実はこの応援ポイントは最下位のチームでも優勝できるくらいにウェイトが大きいのです。ですから、自分の試合中以外でもふざけたり遊んでいる選手はひとりもいません。この応援ポイント、採点していた上中通寿支部長も相当迷っていたようです。今回で試合の勘を取り戻した選手も多く、是非本年の大会でも存分に実力を発揮してほしいと願っております。(レポート：鈴木雄一郎　川根支部)

■第 11 回瀧本杯焼津練成大会■

桜もちらほら咲き始めた 4 月 4 日（日）焼津市民体育館にて、「第 11 回瀧本杯焼津練成大会」が開催されました。今年より、大会会長でいらっしゃる瀧本加名丸先生のお名前を頂き、瀧本杯となりました。日頃から稽古を共にしている者同士や、道場は違えどもお互いをよく知る者同志という事もあり、いい緊張感の中選手達の気合いの入ったウォーミング UP 姿がそこにありました。幼年の元気いっぱいの形試合で幕を開け、各学年とも大人顔負けの気合や試合駆け引きを随所にみることができ、応援席からもいつもより大きな声援が飛び交っていました。この練成大会にしか見られない試合のひとつに、幼年の基本試合があります。自然体より突き 10 本・蹴り 10 本で勝敗を決します。突きや蹴りの軸がぶれず『これが幼稚園児か？』と思うような気合の入った姿を見ていると、大人の私も、この子達に負けないよう日頃の稽古を今まで以上にしなくてはと反省させられました。昼食後の模範演舞では、昨年 7 月より西焼津支部にて、車椅子空手の稽古をされている岡村好幸氏に「初輪の型」を披露して頂きました。ご本人曰く、「とても緊張した。」と言う事でしたが、日頃よりコツコツと努力を重ね稽古されている姿は、子供達をはじめ私達大人の模範であり、良い刺激を頂いております。これから、東海大会・県大会と続きます。日に日に成長する選手達の姿を見るのが楽しみです。(レポート：宮脇裕和　西焼津支部)

■県本部主催指導者及び審判員講習会■

いよいよ平成 22 年度も始動し、本格的に活動シーズンとなってまいりました。オフシーズン中、県内各支部にて厳しい鍛錬の成果を発揮すべく、翌月に県大会･東海北信越大会を控えた 4 月 18 日(日)に、静岡市郊外の静岡北部体育館にて、県本部主催指導者講習会･審判講習会が開催されました。今回の講習会は、小学 3 年生かつ茶帯以上といった中級者以上限定で行なわれ、午前の部では、初段を目指す茶帯は、基本を中心とした技術指導、有段者は、古典型「騎馬拳」「水手」の講習会となり、参加者は熱心に受講しておりました。午後の部では、審判員の技術講習となりましたが、実際に審判員を配置しての実戦さながらの模擬試合にて、ベテラン指導陣よりアドバイスをいただきながらスキル向上を図っておりました。本講習会で学んだ事により、年々レベルアップする試合に対応するべく、危険を排除し、選手はもとより観客にもわかりやすいジャッジが本年の各大会にて随所で見られる事と思っております。(レポート：広報部　秋山高士)

■第 11 回東海北信越地区空手道選手権大会■絆 2010　大会に参加して

今回律誠館支部の大会参加者は、岐阜まで全員一緒に行動し現地入りを行った。車中では、雑談に花が咲き、楽しく岐阜入りをはたすことが出来たのである。序:寒い冬の稽古、結果や状況が見えない時期。この寒い中、子供達に灯りは全く見えない、一人戦いの日々は例年通り続いた。勿論、春を待てず去った子もいた。自分のやり方は正しいか？自問自答であり、その答えの一部が出る日が来た。心:一般だけが理解しているのでは？思いは届いているか？先はあるか？負の念が脳裏をよぎる。闇は深く、確実に負の思考に自分を落とし入れる。だが、応援してくれる人達がいた。私を救った。先生の事嫌いじゃないヨ、息子も辞めたくない、だから…おそらく、指導が気分で流され何の力も無いように映っていたのだろう。私の中の何らかの可能性に期待してくれていた。律誠館の子供達全員が育って行くことを熱望していた。情熱を信じてくれていた。そしてその想いに応えなければと、心が原点に戻った。絆:父兄の考えでＴシャツを揃え、背中にＴママの一筆入魂！「絆」の文字。皆で岐阜城を見学し、皆で食事と楽しいひと時を家族同様に過ごしリラックス出来た前日であった。翌朝、私は 4 時半から散歩、T さんも早起きして散歩、K さんも。結局ホテル横で、空手の早朝稽古が始まったのである。どこかで引かれ合う運命の絆。数年で思考も同じになっていたようである。大会:年々組手のスピードが上がっている、審判は正しい判定のため訓練が必要であり、そのため必ず講習会に参加すること。また、強い極めのためにこそ型の稽古を毎回欠かさず行うこと。組手で活躍するためにも、型の何たるかを支部で毎回指導していただきたい。組手も入賞、型も入賞と両立出来る子が少ないのは、個人的に寂しい気持ちがした。結:高次元の技術、技能は、飽くなき基本の反復演練のみによって得られる。イチローは、打撃の天才ではなく、努力することの天才であり、見合った努力を普通と考え、実践している。今回の参加者は、結果から自分を見つめ直し、個癖を修正し、後の稽古の取り組みかたを見直せば、自ずと向上していくはずである。(レポート：浜松律誠館支部　石津律夫)

■第 10 回 JKS 静岡県空手道選手権大会■

鮮やかな緑が、まぶしく感じる初夏の候、5 月 16 日(日)に JKS 静岡県空手道選手権大会が開催されました。会場となった静岡市北部体育館には、早朝より県内各地からオフシーズンに厳しい稽古を積み上げてきた選手が続々と集まり、どの選手からも、堂々としたその表情は自信に満ちあふれていました。本大会は、本年 8 月に愛媛県にて開催される全国大会の出場選考会を兼ねるとあって、アリーナでの試合前の調整をする全ての選手から、今大会にかける気迫を感じ取ることができました。試合が開始されると、どのコートでも鬼気迫る気合が響き渡り、そのパワーは衰えることなく、むしろ試合が進むごとにヒートアップしていくのを感じました。空手王国と呼ばれる静岡県ですが、毎年この静岡県大会を取材していますと、毎回新しい発見をすることがあります。今年は何があるんだろうと取材をしていたのですが、ふとプログラムを見ていると、中学生と一般有級者の参加者が増えていることに気が付きました。空手を始める動機は様々だと思いますが、小学校から中学校に進学しても空手を続ける、更には、社会人になり空手を始めた成人の方や、道場に通うお子さんに刺激され空手を始めた父母の人達が増えたという事は、県本部をはじめ各支部での地道な活動の効果が、確実に現れていることが証明されています。また、シニアの方が現役の選手として大会に出場できる環境整備こそが、幅広い年齢層の参加を促しているのです。毎年、東海大会や全国大会において、常に優秀な結果をもたらす原動力、それが全員参加型の静岡県空手道選手権大会であり、静岡県内各支部に所属する空手道拳士なのです。(レポート：広報部　秋山高士)

…お知らせ…

掲載記事の大会結果は、広報部 HP に掲載してあります。(表面左上参照)また、静岡県本部発刊の定期機関紙「静岡松涛タイムス」は次号より、不定期ではありますが発行間隔が短くなります。これによって県内各地で開催されるイベントを、よりリアルタイムに近い感覚でお届けすることができると思います。各種イベント等の予定がございましたら広報部まで一報下さい。(広報部)